

平成 27 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

○ 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。

○ 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。
評価ⅣはABCDで記入する。

○ 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立 若 草 中 学 校

平成27年度 学 校 評 価

[各校の重点取組について]

- ①やる気になる、わかる授業と手応えのある学習への取組
- ②開発的生徒指導となる道徳教育、自治活動、体験活動の推進
- ③保護者・地域を巻き込む「共育」活動の推進

学 校 教 育 に 関 す る 重 点 取 組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育充実の取組を促進し、自立や社会参加に向けた主体性を育成する		3.1	3.0
取組とその成果	課題と改善策		
(取組) ・家庭学習の定着のため「自主学習ノート」と宿題の徹底を図る。 ・年間2回の校内研究授業を実施し、研修を深める。 ・少人数学習(2・3年生の英語と数学)と放課後学習の拡大を図り学習支援を充実させる。 ・特別支援コーディネーターを中心として、支援の必要な生徒への個々に応じた手立てを充実させる。 (成果) ・家庭学習ノートでの学習をするようになった。 ・校内研究授業を2回実施、授業改善アドバイザー等を積極的に利用し、授業改善が少しは進んだ。 ・放課後学習を拡大して学習支援が充実した。 ・特別支援コーディネーターと教育支援員を中心に個々の支援の共通理解が進んだ	・家庭学習定着のための「自主学習ノート」とテスト前の計画表をもつと充実するよう、今後も指導を徹底していく。 ・年間2回の授業研究を実施し、事後研究の方法を改善できたので今後指導力向上に繋げていきたい。 ・少人数学習の分割を検討しTT学習との併用や習熟度別にする等改善していく。 ・放課後学習についても希望制を今後指名制も検討をしていく。 ・通常学級の支援が必要な生徒を教育支援員との協力態勢をとって、コーディネーターを中心に個々に応じた手立てを立てて、全教員に共通理解をさせていく。		

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (3) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する		3.0	3.0
取組とその成果	課題と改善策		
(取組) ・本年度の重点努力目標「気持ちの良いあいさつと正しい言葉使いを心がけ校歌をしっかりと歌う」とし、思いやりに満ちた人間関係作りに努める。 ・道徳の授業を大切に行い、講師を招き授業研究を行い道徳性育成の取り組みを促進する。全クラスで道徳の公開授業を実施する。 ・教育相談週間を設け生徒理解に努め、SCやSSWと連携していく。 ・キャリア教育を充実させていく。 (成果) ・3年生を中心に校歌をしっかりと歌えるようになった。 ・講師を招聘し、道徳の授業研究を実施しスムーズな公開授業につながった。 ・SC、SSW等を利用し、関係機関との連携が図れるようになった。	・気持ちの良いあいさつが校内では全体に広がってきているが、このあいさつが地域に広がるように地域との協力態勢をもっと取っていく。 ・道徳の授業研究についても今後継続的に進め、生徒間のスムーズな人間関係構築に努めていきたい。 ・これまで以上に、生徒理解を進めるため、保護者、関係機関との連携のためSCやSSWとの連携を強化していく。		

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る		3.3	3.0
取組とその成果	課題と改善策		
(取組) ・学校たより、保健たより等各種たよりを通して基本的生活習慣の定着、健康の増進の重要性を啓発する。 ・体育の授業、体育的行事のより一層の充実を図り、全教職員での取り組み体制の確立を図る。また、スポーツテストの結果を有効活用させ、自ら体力作りに励む態度を育成する。 ・家庭科や昼食時間など教育活動全体を通して、食育教育を行う。 (成果) ・学校たより、保健たより、学年たより等で啓発を行えた。 ・家庭科で講師を招聘し食育についての学習を行えた。	・保健たより等において、今後も健康の重要性について啓発していく。 ・体育的行事のより一層の充実を図り、全職員で取り組む態勢を確立していく。 ・食の大切さを今後も家庭科や昼食指導等で理解させるよう取り組んでいく。		

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び校内の安全確保を図る (2) 防災教育充実の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		3.3	3.0
取組とその成果	課題と改善策		
(取組) ・毎日の登校時に安全指導を実施する。 ・年2回の避難訓練を実施し、防災教育を徹底する。 ・校内巡視を行い、施設設備の安全確認を日々行い、安全確保を図る。 (成果) ・日々の登校指導や地域との連携で登下校の安全を意識させることができた。 ・次年度のための工事を行っているが、生徒の安全確保はしっかりできた。	・安全指導、避難訓練を含めた防災教育に関して計画的に実施していく。次年度生徒数が増えるため、津波での避難場所の選定を検討していく必要が有る。また、少年消防クラブ全国大会出場を機会と捉え防災意識の向上に努めさせたい。 ・校内施設が大変古く、危険箇所等についての定期点検をしっかりと行い、早めの対応をしていく。校舎の若草中学校の校章を取り外し新校小田中の校章をつけることにより、2年間校舎を大切にすることを教えていきたい。		

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域資源活用取組を促進し、開かれた学校園づくりを図る		3.1	3.0
取組とその成果	課題と改善策		
(取組) ・学校たよりや学年たより、ホームページで学校の取組を地域に発信し、保護者地域を巻き込む「共育」を推進している。 ・学校評価を学校たより、ホームページ、保護者会等で広く情報公開していく。 ・小、中連携に積極的に取り組み保護者地域の協力を得る努力を行う。 ・休日のオープンスクール(体育大会、道徳授業研究)で保護者地域の方々の参加を促し、学校の様子を見てもらい「共育」活動の推進をしていく。 (成果) ・学校たより(23号)を配付し、校内外以外に地域17カ所に掲示してもらえた。また、HPの更新回数も300超になりアクセス数の増加も見られ、学校情報を発信する事ができた。	・統合により校区が拡大するため、学校たよりや学年たより、ホームページ等での学校情報を多く発信し、保護者地域の協力をしてもらうようにしていく。 ・小中連携を進めていき、9年間のスパンで教育を考えていくため、教員同士の情報交換を今年以上にしていく。 ・体育大会、健全育成のたそがれコンサート等休日行事やオープンスクールに保護者や地域の方の参加を促すように、地域の会議に出て啓発していく。 ・校長以外に学校たよりやホームページの担当教員を決めてより一層の充実を図る。		

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3.3	3.0
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実			
取組とその成果	課題と改善策		
(取組) ・意、知、徳、体の力を育てるために、重点目標を全職員が共通理解をし、教育目標の実現を図っていく。 ・個々の適材適所を知り、学校運営への参画意識を持たせモチベーションを上げるため、面談を実施し目標設定をさせ、役割を実行させていく。 ・学力向上はもちろんのこと生徒の自治活動の推進を図る。 (成果) ・個々の面談をすることにより、それぞれの役割をこれまで以上に果たすことができた。 ・生徒の自治活動についても積極的に取り組まることができてきた。	・年度内に、新校小田中学校の教職員の共通理解を進め、全職員チームとなって指導していく。 ・面談等でそれぞれの役割を確認し、今後も長期展望に基づく適材適所での担当を決めていく。 ・学力向上、生徒の自治活動への取り組みを推進するため、教師の指導力を向上させる研修、生徒会等生徒の活動の充実を図る。		

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3.0	3.0
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実			
取組とその成果	課題と改善策		
(取組) ・研究テーマ「手応えある個々の学力アップを目指した工夫改善と自治活動の推進」を進める。 ・年2回校内の授業研究会を実施し、教科を越えて授業力を高める一助とする。 ・学力調査やアンケートの分析から課題を見つけ、見通しと振り替えりのある効果ある指導法を検討していく。 ・自治活動の推進のため行事ごとの学級学年のリーダー養成を考え育ていく。 (成果) ・校内研究授業後の研究協議の充実を図ることができた。 ・自治活動の推進のための学年学級のリーダーづくりの意識が出てきた。	・研究テーマを検討させて、学力アップを目指した、授業改善を行っていく。 ・研究授業後の事後研究会を活発に意見を出せる様にして、授業力向上や教職員の意識を変えて、お互いの授業をもっと見るようにしていく。 ・各行事ごとリーダー養成を考え指導して、生徒自ら教育環境を整え、行事の運営もできるように指導していく。		

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
取組とその成果	課題と改善策		

学校関係者評価

※ 評価Ⅲの基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
1:取組が不十分である

学 校 関 係 者 意 見 等	評価Ⅲ
1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる 学習習慣を確立させる努力は良くしている。小さいことからコツコツ積み重ねて指導しているので、学力向上は後々表れると感じる。今後も学ぶ楽しさを毎日の中で生徒達にわからすよう教師の創意工夫がより求められていくと思います。目に見える結果を少しずつ出して、意欲をもっと高めていってほしい。	3.0
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る 様々な行事への取り組み姿勢(生徒も教師も)が誠実に感じられる。 子ども達に解りやすく、良いこと、注意することを具体的に指導されている。 不登校児については限界を感じられるところもあるのだが、子どもや親への働きかけがとって良くなったと感じる。 心身の発達の基本は、家庭にあると思います。学校とPTAがもっと強く結びつき家庭環境の向上に力を入れることも一つの方法かと思います。	3.6
3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む 工夫して向上充実に取り組んでいる。 部活動での充実がよくわかる。(勝ち負けだけでなく)保護者の部活動への感謝が多く聞かれた。 経済的に厳しい家庭が多くありますが、食育指導をしていただいたおかげが少しはあったと思われます。今後も継続していってほしい。	3.4
4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る 真面目にしっかりと取り組んでいる。 生徒一人ひとりの意識付けできてきたように感じる。登校時の姿や学校内での安全配慮が良かった。部活での移動時の自転車の乗り方等指導が行き届いていた。 学校内工事が続き心配でありましたが、生徒達もしっかり注意を聞き安全に生活できたとは思いますが、臨機応変の対応ができるよう思考力を身につける必要が有ると思います。	3.6
5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む 校長が率先して取り組んでおられ、生徒達も地域から評価されている。 不登校生徒への家庭への声かけや訪問が多くなった。また、地域の掲示板への学校たより、HPの充実等学校の様子が保護者地域に公開されている事で連携がとれてきたのを感じる。 今後も続けてもらい地域の力をもっと利用し、家庭の助けになるようにしていけたらいいと思う。 地域や保護者からの苦情が無くなり学校の努力の跡が見られた。	3.8
■教育目標『豊かな人間性と 生きる力を育み 自立した生徒の育成』 折に触れて、朝礼や学校だよりHPに目標達成の努力がしっかり見て取れる。 家庭で身につけられていないことを体験させながら子ども達が言葉脚気や行動に成長している様子がうかがえる。 一朝一夕に結果が出ないですが、学校の日々の取組が実を結んでいくと思います。 今後も生徒会活動を中心に活動させてほしい。	3.6
■研究テーマ『手応えのある個々の学力アップを目指した工夫改善と自治活動の推進』 授業については真面目に取組工夫もしているのだが、学力アップにはもう少し時間が必要のようである。 日々の生活の中で、小学校では味わえなかった自治活動で思いやりの気持ちが培われていたと感じる。 学力アップについては、教師だけの問題ではないので、もっと家庭の協力が必要かと思う。生徒の学習意欲をもっともっとあげていかないといけないと思います。学力向上を教師の創意工夫でもっとしっかり進めていってほしい	2.6
■お願い 色々なことで良くやっていただいているのですが、もっともっと小学校との連携を密にしてほしい。 中学生になっているのに心が小学校のままの生徒が年々増えてきている様に感じる。 中学校の取組が小学校の時からできるようにしてほしい。	
評 価 項 目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)	評価Ⅳ
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	A
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B